



今月のトピック

山火事に注意「火を消して 森を消さない 心がけ」



山火事には注意しましょう!

4月20日と27日に、南会津郡内において山火事の予防を呼びかける山火事防止パレードが実施されました。

パレードは、広域消防本部・会津森林管理署及び南会津支署・各町村・各森林組合・N T T・東北電力(株)・電源開発(株)・南会津農林事務所等で構成する南会津地区山火事防止対策協議会の主催で実施され、地域住民や子供たちにチラシや花の種等を配布して、山火事の予防を呼びかけました。

今年は例年になく融雪が早く、乾燥も続き、昨年をはるかに上回るペースで山火事が多発しています。当南会津地方においても、昨年の総発件数をすでに上回っています。

南会津地方は、山菜取りや釣りなどを目的とした県内外からの入山者が多いことから、パレードやパトロールなどを行い、山火事の予防に努めておりますので、皆様の協力をお願いします。

なお、皆様の大切な森林を守るため、まさかの備え「森林国営保険」への加入もよろしくをお願いします。

春の訪れは、会津地鶏と共に



元気に育ててください

去る4月18日、下郷町十文字の阿久津有信さんのお宅に会津地鶏の雛が搬入されました。

今回、阿久津さんが導入した雛の数は、1,000羽で、年間では2,500羽の導入を予定しています。

阿久津さんは以前、採卵鶏を飼っていましたが、今年で会津地鶏の飼育を始めて5年目になる下郷町の地鶏飼育のパイオニア的存在の人です。

現在、阿久津さんの経営内容は、水稻と会津地鶏の複合経営ですが、今後は、鶏ふんを利用した南郷トマト栽培を考えている等、元気とやる気に溢れた人だとも言えます(もちろん地鶏に対する愛情も)。

このような阿久津さんに育まれて会津地鶏の雛も元気にすくすくと大きくなって行くことでしょう。

この会津地鶏の鶏肉には、適度に歯ごたえがあり、脂がのっているためコク、うま味に

優れている特性があります。この特性を一般消費者の方々にPRするために、平成13年3月に作成した「会津地鶏料理レシピ集」の中から、「南郷トマト」、「そば」、「じゅうねん」、「館岩赤かぶ」など南会津の特産品を活用した料理を10作品選び、この3月にパンフレットを作成しました。

それぞれの料理の簡単なレシピも載っていますので、会津地鶏の料理に関心のある方はぜひ参考にしてください。

このパンフレットについてお問い合わせ等がありましたら、南会津農林事務所農業振興部(電話0241-62-5253)まで御連絡ください。



おいしい料理が載っています
(農業振興部)

春!アスパラガスが続々出荷



おいしいアスパラガスです!

漬けた漬け物も食べています。これがまた、アスパラガスの菌ごたえが非常によく、癖になる味です。みなさんも是非お試しください。

南会津特産のアスパラガスは4月下旬に半促成栽培が最盛期を迎え、日量300ケース(4.5kg箱)が毎日出荷されました。また、5月の連休には露地物の出荷もピークを迎えました。出荷量は昨年と同じ時期に比べ上回っています。春のアスパラガスは、昨秋に根にたっぷり蓄えられた養分を使って芽吹いたものを収穫しますので、大変甘味があり、柔らかく、とてもおいしいです。市場販売はもちろん、ゆうパックなどでも販売され、消費者にも大変喜ばれています。

アスパラガス料理といえば、おひたしやベーコン巻きが一般的ですが、栽培農家ではアスパラガスにつまみ鱈やにんじんなどを加え、ショウガ醤油に

(農業普及部)

「移動農林事務所」を開設しました

去る4月22日、管内各町村を訪ねる「移動農林事務所」が伊南村を皮切りにスタートしました。

「移動農林事務所」は、平成13年度よりスタートした「豊かな自然を生かした園芸産地とやすらぎの里づくり」をスローガンに掲げた「うつくしま農業・農村振興プラン21 南会津地方計画」を達成するため、各町村と南会津農林事務所との間で農林行政の課題や農林業の振興方策等について町村単位に幅広く自由な意見交換を行うことを目的に開設したものです。

この「移動農林事務所」は本年度で2回目となり、平成14年度の重点事業内容や新規制度の説明をはじめ、各町村が直面している緊急的な課題などについての要望、意見等が出され、さらに、県として対応可能な事業を紹介するなど有意義な意見交換がなされました。

本年度の「移動農林事務所」は5月8日の下郷町で終了しましたが、「移動農林事務所」を契機に、より密接に町村と連携した事業展開を図ることで、南会津地方の一層の農林業の振興を図りたいと考えています。

(地域農林企画室)



充実した意見が交わされました

ひとくち普及情報

「南郷トマト育苗始まる」



は種作業風景

南郷トマトの共同は種作業は、毎年積雪の心配がなくなる4月になってから行われます。今年は、4月7日には種作業が行われました。は種作業は、10戸の育苗を担当するトマト農家で行われ、全トマト農家134戸分の苗を約3週間、苗を生産者に渡すまで管理を行います。

平年であれば、は種を行うハウスの周囲の除雪作業が重労働となる所です。しかし、今年は積雪が少なかったことや、気温が高めに推移したため雪解けが早く、は種の準備作業も順調に進みました。

は種作業は、育苗担当農家の近隣のトマト農家も手伝うことで、お祭りのように賑やかに行われました。

天候に恵まれ晴れた日が多かったので、は種後は苗の生育が順調に進み、4月26日より苗が配布されました。霜の心配が残るものの、配布以降はトマト農家が定植まで個別に育苗をすることとなります。

大型連休中には、接ぎ木作業が行われます。また、パイプハウスの屋根の被覆作業、肥料の散布も行われます。定植が行われる5月末頃までは、トマト農家は、毎日トマト苗の管理や農作業で忙しくなります。

(農業普及部)



育ってきたトマトの苗

「食農教育」という言葉をご存知でしょうか。「食農教育」とは、皆さんが生きていく上で決して欠くことのできない「食料」と、それを生産する営みである「農業」について、学び、そして実際に体験することで、食べ物の大切さや農業の重要性を知るための学習であるといわれています。

これは、子供たちに食料、農業のことを考えてもらうだけでなく、健康、環境のことについても考えるきっかけになり、極めて有益な教育であるといえます。

さて本年度より、いよいよ小・中学校において、「総合的な学習の時間」、「完全学校週五日制」が始まりましたが、これらを活かして、学校、地域で「食農教育」を推進してみたいかがでしょうか。

その際にぜひお役立て頂きたいものとして、「食農教育応援メニュー」があります。

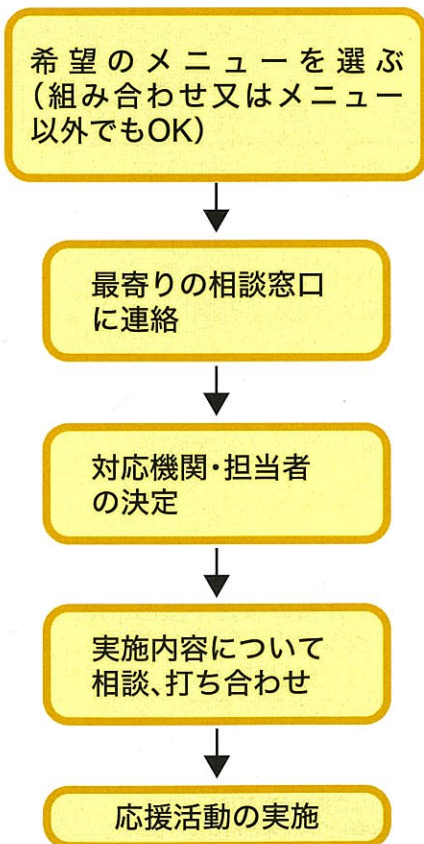
これは、県、東北農政局福島統計情報事務所、仙台食糧事務所福島事務所、JA福島中央会からなる、「食農教育連絡会」が作成したもので、「ふれる（体験学習）」、「きく（出前講座）」、「みる（施設見学）」、「しらべる（資料提供等）」の分野ごとに、さまざまな食農教育のメニューを用意し、そのメニューにより食農教育連絡会の各機関の職員が、食農教育の応援をするものです。

応援メニューの内容、応援活動の流れについては、下の図表のとおりです。

くわしくは、地域農林企画室までお問い合わせください。
(地域農林企画室)



【応援活動の流れ】



【応援メニューの内容 (一部)】

分野	応援内容	メニュー
ふれる (体験学習)	農業体験（受入可能農家の紹介、指導助言、実施施設の斡旋）のお手伝いをします。	稲、果樹、野菜の栽培
		おいしいご飯の炊き方 豆腐づくり
きく (出前講座)	専門知識を持つ職員が要請により訪問し、授業のお手伝いをします。	お米の生産から消費まで
		農業・農村の持ついろいろな役割 林業について
みる (施設見学)	試験場、農業関係施設の見学ができます。	農業試験場
		野菜、くだもの選果場 乾燥、調製施設、低温倉庫
しらべる (資料提供等)	農林水産業に関する各種資料の提供を行います。	農業(米、野菜、くだもの、畜産など)に関する資料
		林業(木材、きのこ。炭など)に関する資料
		農林水産業に関するビデオ、パネルの貸し出し

「心のふる里としての南会津に」

冬が去って南会津にも春がやって来ました。毎年
のことなのだろうけど、木々や草花が一斉に芽吹き、
花を咲かせる様はまるで賑やかな笑い声まで聞こえ
るのではないかと思います。愈々人も動物も植物も
活動の季節の始まりです。

南会津の自然は彩りが鮮やかに変化し素晴らしい。
そして自然と調和した農村景観、これがまた味わい
があります。山際に沿って続く手入れの行き届いた
田んぼ道、畑の隅に咲いている花などを見ると、周
りを慈しみながら作業する人の姿を彷彿とさせます。
そして見る者の心を和ませる何かがあります。南会
津を歩くとその様な景観をそちこちに見出すことが
できます。都市では沢山の人が働いているにも拘わ
らずなかなか見出せません。

この心を和ませる何かですが、私にとって不思議
なことに、登山で何日も山中で過ごし下山する時、
最初に見える田畑や木小屋から受ける気持ちと共通
するものがあります。無事人里に下りてきたという
安堵感ですが、畑や木小屋が「人が生活している棲
みかだよ」と言っているようなのです。自然の爽快
さを求めて登ったのですが、人は自然の中で人間の

営みがなされるところ（＝むら）が一番安心してい
られるのだと思います。

都市から農村へのグリーン・ツーリズム、自然豊
かな農村での農作業体験も実は同じ安心感を得、生
きる実感を確認するものだと思います。

南会津の、人の心に安らぎを与える景観は「心の
ふる里」であり、それは村の人々が作り上げて来た「人
里」なのです。厳しい自然の中で営んできた人々が
集落、田畑、山林、小道などを長い歴史をかけて、
自然の力と調和させてきた結果が今日の景観を作り
上げたのだと思います。そこに暮らす人々の気持ち
や生活が感じられるからこそ、人に安らぎを与えて
くれるのではないかと思います。

これからの世の中、社会の高度化が進み、また寛
容さも失われていくような心配がします。そのよう
な中で、南会津に魅力を感じずる人達が増々多くな
ってゆくのではないのでしょうか。ここに暮らす私達が、
それらの人達を暖かく迎え入れることができれば良
いと思います。

次長 斉藤 敏道



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①農業機械研修：トラクタ基本運転①	6月 3日（月） ～ 6日（木）	農業短期大学校（矢吹町）
②専門研修：グリーンアスパラガスの 安定生産技術	6月12日（水）	農業試験場会津地域研究支場 （会津坂下町）、山都町
③農業機械研修：ミニバックホウ操作基本	6月18日（火） ～19日（水）	農業短期大学校（矢吹町）
④農産加工研修：販売拡大のためのパッケージ デザイン	6月19日（水）	農業短期大学校（矢吹町）
⑤農業機械研修：自分で作るアイデア機械	6月24日（月） ～25日（火）	農業短期大学校（矢吹町）



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真（撮影：岸）
残雪の山と田子倉ダム
（只見町石伏）



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



この広報紙は古紙配合率100%再生紙と
SOY（大豆油）インキを使用しています。